

## 観光交流都市宣言

平成8年本市が「観光都市宣言」を行うとともに、国から「国際会議観光都市」に認定されて後、16年が経過しました。

本市の観光の転機は、平成12年の「しものせき観光キャンペーン実行委員会」の立ち上げに始まります。平成13年（21世紀）に入ると、新水族館「海響館」や新「唐戸市場」のオープン等、唐戸の海峡沿いに新たな観光エリアが誕生するとともに、ハード・ソフト両面での充実により観光客数は大幅な増加となりました。その後も、NHK大河ドラマでの数度にわたる本市の取り上げ等の追い風もあり、現在では山口県内において観光都市の上位にランク付けされています。

現在国内においては長く不況が続き、人口減少問題もあって全国的に定住人口の拡大が容易に望めない中、本市の重要施策として観光客の増加による交流人口の拡大を目指すこと、観光都市として数段のランクアップを図ることが当面の課題と認識するものであります。

観光は、宿泊・運輸・飲食・小売・その他サービス業、さらには製造業や農林水産業等、幅広い産業に波及するすそ野の広い総合産業として、地域の経済に大きな影響を与えるものであり、結果として定住人口の拡大にまで影響が及ぶ可能性が認められる主要産業です。

この先、2022年を目標に、全ての下関市民が「誇りを持てる観光都市 下関市」の構築に向けて邁進していくため、ここに第二の「観光都市宣言」として改めて「観光交流都市 下関市」を宣言するとともに、本市観光振興戦略としての「下関市観光交流ビジョン2022」を策定し、10年後の観光客数1,000万人、宿泊客数100万人の数値目標を掲げることとしました。

平成24年12月

下関市長 中尾 友昭